

光谷室長から年輪年代法の内容や計測方法などが説明され、殿下は興味深く説明を受けられていた様子でした。

(管理課)

第2回平城宮跡ぶらりウォーク開催



解説ボランティアから説明を受ける参加者

4月15日（日）奈文研主催で、平城宮跡解説ボランティアとともに散策する「第2回平城宮跡ぶらりウォーク」を開催しました。約100名の参加者は青空の下、4.5人のグループに分かれ、ボランティアの案内で1キロ四方にわたる平城宮跡を一周して、広大な自然と歴史ロマンを満喫しました。

これは、平城宮跡の魅力を多くの人に知ってもらうことや、平成11年度から実施している平城宮跡解説ボランティア事業をより積極的に推進する目的で、昨年12月に引き続いて企画したものです。参加者は「解説してもらうことで、当時の様子を想像しながら散策できて楽しかった」「見晴らしがよくて気持ちがいい」など一様に、平城宮跡の自然と歴史の重さに感動した様子でした。

次回は秋に開催しますので、9月頃に参加者の募集をする予定です。

(文化財情報課)

文化財情報の公開及び見学情報

(飛鳥資料館)

春期特別展「遺跡を探る」

・会期 5月15日～7月1日

・開館時間 9：00～16：30（入館は16：00まで）

地中に埋もれた遺跡の有無、あるいはその大きさや性格を、掘り起こすことなしに推定することは、遺跡の保護、調査に携わる者にとっては、基本的な作業といえます。学術的調査を行おうとす

るにしても、土地開発に対応する事前調査を計画するにしても、まず地下の遺跡を把握する必要があるからです。このために、研究者が、対象となる土地の上をくまなく歩き回って、特徴的な地形や、地表に散った遺物の破片の分布などを調べるとか、崖面や掘削工事であらわされた地層を観察するといったやり方が行われてきました。

物理機器を用いた地中探査は、こうした従来の遺跡確認の手法を補い、さらに確実なものとする手段として研究がすすめられ、実際に応用されるようになったものです。探査の結果は発掘調査地区を設定したり、発掘の期間や費用の目安をたてたりするのに役立ちます。今回の特展では、普通は目にすることのない、大地比抵抗測定装置、磁気探査機、地中レーダーなどの遺跡探査機器の実物を展示、その作動原理を解説するとともに、写真やパネルやグラフを用いて様々な遺跡への実際の応用例を展示します。地中探査技術と考古学のかかわりに、いささかでも興味と関心とをもっていただければ幸いです。



電気探査

(第88回公開講演会)

・日時 6月16日（土）13：30～

・場所 平城宮跡資料館講堂

・定員 先着200名

「復原された東院庭園隅楼」箱崎和久

「よみがえる浄土世界－阿弥陀浄土院の発掘－」

清野孝之

※聴講無料

(現地説明会)

○興福寺中金堂発掘調査

・日時 6月17日（日）13：30～

・場所 奈良市登大路町興福寺境内

○藤原京左京七条一坊西南坪（橿原市営住宅建設）発掘調査

・日時 6月30日（土）13：30～